

ヲ軍屬トシテ配屬スルコトト致シ度

(終)

1417

極付

至急

支那側ノビルニ進出部隊ハ二ヶ隊あり

陸軍

第六班

倫敦支那武官宛

重慶軍司令部一八日電

一九、二〇〇度

十三日附電了承

我ビルニ進出部隊ハ同下只四十九解ノ一ヶ隊隊ガラシキニ到着シ九十三解ノ一ヶ隊隊ガエニヤシニ進出セルノコトナリ

右力ハ國境由海打拉一帯ニ在リ

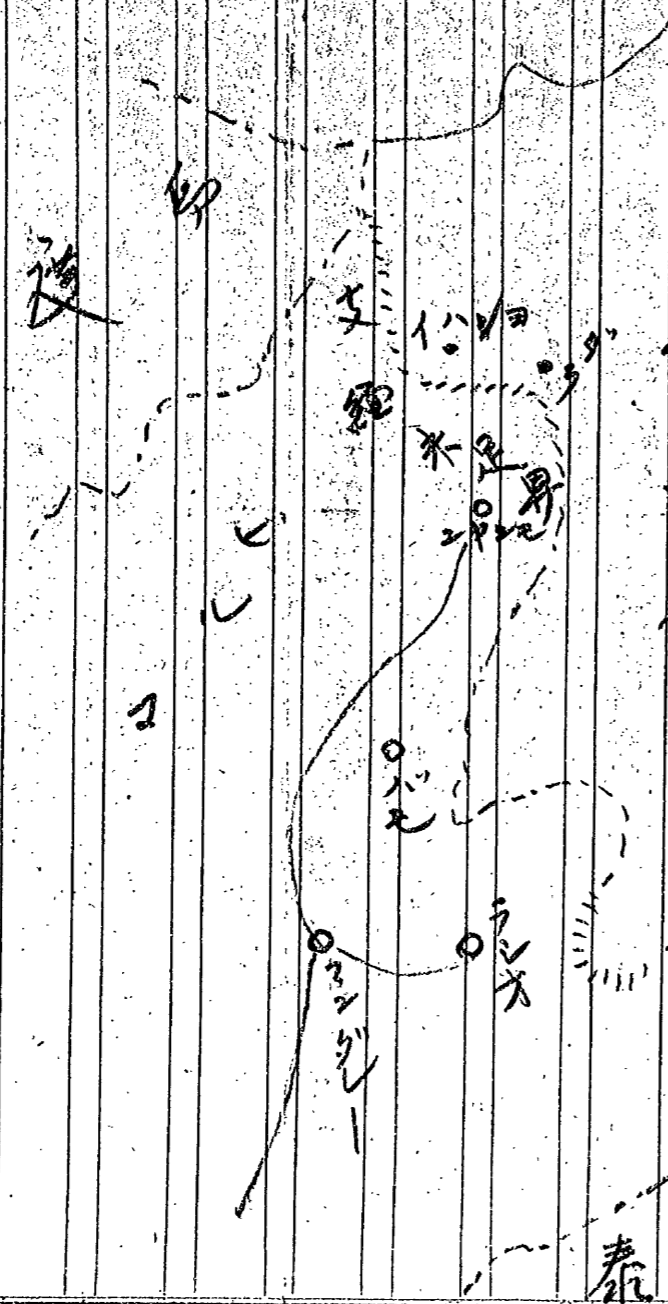
右回答

佛印

雲南省

泰

支2/1附圖



註、海打拉ノ位置不明

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
	16	15	17	16	15	14	13	12	11

3 (第二課)

極秘

甲方參二電第九四三號

電報
次長宛

甲集圖參謀長
六六
一七五〇
一九一〇
二二〇〇
〇二
〇一
〇〇
點受

昭和一七六七

重慶ノ米資ニ依ル玉門油田開發
翁文灝ハ四月十八日飛行機ニテ重慶ヨリ蘭州ニ飛來シ二十二日
同地ヨリ自動車ニテ肅縣玉門ヲ視察シ更ニ青海ニ赴カントシア
リ(敵側新聞)
重慶ハ米資ヲ以テ玉門油田(赤金峽油田)ノ擴充ヲ企圖シ甘肅
省油公局ヲ設立米國ヨリ機械ヲ購入シ北送中ニテ其ノ一部ハ既

1419

ニ現地ニ到着装置中ナリ（敵側宣旨乙上）

ニ 専門家ノ言ニ依レバ談油田ノ採油量ハ現在僅少ナルモ設備完備

セバ抗戦ノ需要ヲ満シ得ベシ（同）

四 諜者報ニ依レバ玉門油田開發ハ米資ニ依リ「ソ」聯ハ之ニ介入

セズト

通電先 參 總

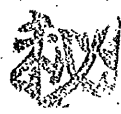
（終）

1420

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
20	19	18	17	16	15	14	13	12	11

第三報

3



登留守参情記第三〇回編

電 報
次 長 宛

上海 陸軍部 陸軍部 陸軍部
陸軍部 陸軍部 陸軍部
陸軍部 陸軍部 陸軍部

昭和一九六二

真主力ハ「せ」號作戦ヲ實施中ニシテ清郷工作戦果ハ含ムモノセシ
 據作戦戦果ハ含マス、五月中ニ於ケル綜合戦果概要左ノ如シ

交戦敵兵力 四二二〇三 交戦回数 二八四

敵ノ遺棄死體 一六二五 俘 七八二

敵ノ遺棄死體 四一六

敵ノ遺棄死體

1421

照鏡	獵銃	洋砲	手榴彈	擲彈筒	拳銃	同彈藥	自動小銃	輕機	重機
二	四四	八四	七九九	三二	八八	三七三八六	一	八	三〇〇〇
其他砲數門	電話機	青銅刀	銃劍	擲彈筒	同彈藥	小銃	同彈藥	同彈藥	
	七	七三四	八六	一	一六九〇	七一二	三五三五		

物 資

米 約三八〇〇 石 銀? 一六萬元

我方損害

戰 死 五九 (内將校五名)

戰 傷 一〇八 (内將校一名)

行方不明 一

通電先 參 總 登戰團司令部

(終)

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
20	13	13	17	16	15	14	13	12	1

44

3



和

電

次 長

宛

甲

部

隊

參

謀

長

報

六二二

一四二五發
一七四〇著
二二二五點受

昭和二十六年一月

甲方參二電第九五〇號

重慶ノ俸給米弗支給（商人ノ言ニ依ル）

一重慶官公吏ノ俸給ハ六月ヨリ百分ノ五ヲ米弗ヲ以テ支給シ六月

十日現在一弗ハ法幣二〇元換算

ニ法幣ニ對スル不信ノ愈々深刻化セル一證左トモ認メラル

通電先 陸 參 總

（終）

1424

秘

電 報
次 長 宛

登	一	一	六
部	二	一	一
隊	〇	二	一
參	八	三	六
謀	〇	三	五
長	〇	〇	〇
	點	受	著

昭和一七六一三

登戰參情電第一一六號其ノ六(註、六月十日配布未着ノ分)

衢州附近ノ河川ハ連日ノ豪雨ニ依リ増水甚シク且渡河材 料ナ?
 ク? 渡河ノ爲各兵團ノ困難絶大ナルモノアリ又飛行團大坪戰隊ハ
 二日以來一部ヲ以テ龍游ニ前進セリ

(續)

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
20	19	18	17	16	15	14	13	12	11

3
第三課

至急電

電

報

次長
官長

宛

波部陸參謀長
第一九五號

第二十三軍命令

六月十二日二十四時警戒管制ヲ發令ス

解除時機ハ別命ス

電先

イダロ
井畔

松井

山田

松尾

支隊

(西央)

兩部軍

海軍

防總

支總

臺灣軍

(香港參考)

(終)

六一三

波部陸參謀長
七六三二
五三四一
〇〇〇〇
滿次春發

昭和一七六一三

1426

3 白井 丸島 道雄 久

連部
帶外

47	長	總	名	宛	番	發
	托山		件	名	號	送
	長	次	五十號作戰ニ関スル連絡ニ対スル回答			
部回決 長行後	長 部 帶 連	部 主 長 任	部 總 長 務	昭 和 十 七 年 十 月 十 九 日 午 前		
課回決 長行後	長 課 帶 連	課 主 長 任	課 庶 長 務	時 分		
		部 主 員 任	主 庶 任 務	者 發 信 送		
				者 發 印 送		

部連
課名
帶

決行後回
覽部課名

後宮淳

田辺盛武

部
下
部

1427

北方ノ敵約三百ヲ撃破セシメタリ

一箇大隊ハ八日夜大寨ニ達シ打鷹山

ノ敵退路ヲ遮断セリ 増加セル一箇

大隊ハ騰越一哨坡道ヲ前進セル等

戦果等ハ調査中

二騰越飛行場ノ整備完了シ十日軍ノ

飛行機一機著陸シ連絡セリ

(終)

通電先 岡、參

軍事機密

五十一號作戰檢討ニ關スル要望

昭和十七年七月十五日

第二課長

第十課長殿

一本作戰カ國力(總動員)戰力等ニ及ス影

響ノ檢討ニ對スル協力

ノ船舶ヨリ見タル本作戰ト軍容刷新

ノ遂行トノ關係

1430

二 本作戦ノ遂行ト他方面ニ對スル作
戦能力トノ關係

三 本作戦遂行上船舶ノ負擔ヲ最モ輕
減スル方策

三 本作戦遂行上必西支ナル船舶(特ニ宜昌
ヨリ上流ノ揚子江水運ノ爲)整備ニ關ス
ル件

軍事機密

五十一號作戰檢討ニ關スル西女望

昭和十七年七月十五日

第二課長

第十一課長殿

一本作戰遂行ノ爲必要ナル通信部

隊ノ檢討及之カ整備充當ノ計

畫

1432

秘親展

昭和一七八二

電 報
次 長
官 宛

總參四電第七六一號

陸支密電第一三一號返

國民政府ノ參戰問題ニ關シ總軍トシテハ從來慎重ナル研究ノ結
果政治的効果以外ニハ實益少ク殊ニ帝國トシテハ在支敵國權益
ノ處理ヲ完了シタル後ニアラザレバ現地ニ於テ種々紛争ヲ起ス
虞モアルニ付縱ヒ參戰セシムル場合ニ於テモ其ノ時機ニ就テハ
慎重ナル考慮ヲ要ストノ見解ナリ

通電先 陸 參

(終)

支 一〇〇〇
那 〇〇〇〇
派 〇〇〇〇
遣 〇〇〇〇
軍 〇〇〇〇
總 〇〇〇〇
參 〇〇〇〇
謀 〇〇〇〇
長 〇〇〇〇

10	9	8	7	6	5	4	3	2
25	10	18	17	16	15	14	13	12

秘

電

報

九一六二〇
一七〇〇一〇五五
一〇二四四四
〇〇四四四
〇〇四四四
〇〇四四四

昭和一七六二七

登 部 隊 參 謀 長

通電先 次長 小林 内田 南部 陸 總軍 大木

登戰參電第一四〇九號

三軍作命甲第二〇四號要旨（九月十六日一九〇〇）

軍ハ太湖東南側ノ第二期清郷工作ヲ實施セントス

工作地域ハ海杭線以南海鹽、平湖、金山各縣及松江、嘉善、嘉興、

海寧各縣ノ線トス

第六十師團長ハ十月一日以降別冊要領ニ基キ清郷工作ヲ實施スベ

1434

三 杭州特務機關長ハ清郷工作ニ關シ依然軍直轄トナリ密ニ第六十師

團ニ連繫シ十月一日以降別冊要領ニ基キ清郷工作ヲ實施スベシ

四 第七十師團長ハ九月二十日歩兵二中隊ヲ硤石附近ニ於テ第六十師

團長ノ指揮下ニ入ラシムベシ

五 混成第十二旅團長ハ歩兵一中隊ヲ九月二十五日迄ニ嘉興ニ到ラシ

メ 第六十師團長ノ指揮下ニ入ラシムベシ

(終)

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
20	19	18	17	16	15	14	13	12	11

3
第三種

電

報

九一三二一三〇發
一四〇二五五著
一四〇〇〇受
一九三〇〇點

登 部 隊 參 謀 長

通電先 次長 總 獨混旅 中支憲兵隊 第一第二船輪司

登戰參電第一三八四號 (十四日主任課ニ取敢ズ配布済)
再電要求ノ爲遲延

三軍作命甲第二〇〇號要旨 (十三日十九時)

第一百十六師團長ハ巢縣、含山、和縣、無爲縣ノ任務及兵力ヲ第

十五師團長ヨリ繼承スベシ 現ニ巢縣地區ニ位置スル獨立混成第

二聯隊ノ所屬部隊ハ十月十五日迄ニ該地ニ集結スベシ

指揮轉移ノ時機ハ十月一日零時トス

(終)

昭和一七九一八

1436

第三編

作職

至急秘

50

電報
 報
 一〇二七
 一五九〇
 一六三〇
 一八〇〇
 甲部隊參謀長

昭和十七年二月八日

通電先 次長 陸支總

參考 關朝 上海陸軍部

甲方參四電第一二七二號

青島海軍根據地隊ヨリノ情報ニ依レバ芝罘石島海陽附近ノ沿岸ニ復
 數不明ノ敵潜水艦出沒シアリテ陸上敵國人ト連絡ノ疑アルニ付仁部
 隊ヲシテ海軍ト協同シ該地殘留敵國人ニ限リ總參四電第九九八號
 (敵國人集結時期ノ件)ニ拘ラズ取敢ズ一定地區ニ集結方手配セシ

1437

メ
タ
リ

(終)

1438

第三課

極秘

電

報

昭和一七一一一三

甲 部 隊 參 謀 長

通電先

次長 支 總 仁

甲方參二電第三八一號

陝甘方面ノ敵情（開封機關謀者報俄ネ甲）

一 第十戰區ハ未ダ成立シアラズ 胡宗南ハ第八戰區副司令長官トシ

テ陝西省及甘肅省東部ニ於ケル軍事ノ實權ヲ完全ニ掌握シアリ

第三四集團軍ノ實際上ノ指揮ハ副總司令李延年ナリト

二 胡宗南ハ所管ノ部隊、軍事機關、學校ヲ確實ニ掌握シ右ニ屬スル

1440

各級幹部ヲ任意ニ更迭シアリテ之ニ對シ表面反對スルモノナク彼ノ實質的軍權把握力ニ就テハ注目ヲ要スベキモノアリ

三 靜寧ニ在リシ第三八集團軍總司令部ハ十月中旬平涼ニ移駐シ且在蘭州ノ第四二軍ハ該集團軍ニ轉屬スト

西安警備ハ依然第八師ナリト

四 西安辦公廳ハ其ノ存在機能ヲ失ヒアルモノノ如ク主任代遜タル胡宗南ハ一週一度來廳シ業務ヲ總巡スル程度ニシテ重慶中央モ之ヲ重視シアラスト一説ニハ將來機構ヲ改革シ蘭州ニ移駐スルナラントノ消息モアリテ其ノ内部ノ人員志氣沮喪シアリト

(終)

第三編

秘親展

作戦

電報

一八一八
一六〇〇
一六一五
一七二〇
一九〇〇
點受著發

昭和一七一一

通電先 呂波

支那派遣軍總司令官

參考 次長

總參一電第六三六號

總作命甲第四四五號發令 (十一月十八日十三時)

一第六師團ヲ第十一軍戦闘序列ヨリ除キ第八方面軍戦闘序列ニ編入

セシメラル

第十一軍司令官ハ第六師團ヲ南太平洋方面ニ至リ第八方面軍司令

官ノ隷下ト入ラシムベシ

57

一 獨立重砲兵第三大隊（戊）ヲ第二十三軍戰鬪序列ヨリ除キ第八方面軍戰鬪序列ニ編入セシメラル

第二十三軍司令官ハ獨立重砲兵第三大隊（戊）ヲ南太平洋方面ニ至リ第八方面軍司令官ノ隸下ニ入ラシムベシ

二 前二項部隊ノ隸屬轉移ノ時機ハ支那港灣出發ノ時トス

但シ十一月二十二日零時以降未ダ新所屬軍司令官ノ隸下ニ入ラザル部隊ニアリテハ作戰ニ關シ第八方面軍司令官ヨリ所要ノ區處ヲ受クルモノトス

三 第二船舶輸送隊長ハ前項部隊ノ輸送ヲ處理スベシ

四 第十三軍ハ第六師團ノ上海附近待機間ニ於ケル兵站業務ヲ擔任シ訓練實施ノ爲所要ノ援助ヲ與フベシ

五 輸送其ノ他細部ニ關シテハ總參謀長ヲシテ指示セシム

（終）

第三課

3

作
作職

秘

電

報

通電先次長陸支總

波參電第六九八號

波部隊參謀長

昭和十七年一月二十九日
二二三八
一四三〇五五
一六一五五
一八〇〇五五

在澳門錢莊業者ヨリ得タル情報ニ依レバ重慶側

ハ中英金融會議ノ結果ニ基キ法幣對香港幣ノ

レートヲ左ノ如ク變更シ十二月一日ヨリ實施スル

コトトナレリト

法幣一八七五元ニ對シ香港幣一〇〇〇幣

ニ尚從來ノ比率ハ法幣一〇元ニ對シ香港幣一〇〇幣

ナリ

參考迄

(終)

三 十二月三十日以降一月十五日ニ至ル間

管内被害状況 沈左ノ如シ

鐵道爆破 一五件

小車(驛舎)襲撃 三件

通行妨害 二件

一日平均件數八月、九月頃ノ約ニ倍

之ヲ要スルニ蔣介石ノ指令ニ基ク遊撃

ハ低調ヲモ銳意實行ノ跡ヲ認メ

ラルルヲ以テ指令ノ期間ヲ経過セル今

後ニ於テモ依然警言戒ヲ嚴ニシツツアリ

通電先 陸參 呂 登 波

(終)

60

連部
帶外

部連
課名帶
膳
元

部回決 長覽後	長	總	名件	宛	番發 號送
	長	次	支那派遣會 波集國參謀長 治集國參謀長		
課回決 長覽後	長部帶連	部主 部長	部總 部長務	電	
	長課帶連	課主 課長	課庶 務長	庶務課長	
	第三課			者信發	
				昭和一七年一月六日午前二時〇〇分	
				者發 印送	

決行後回
覽部課名

部
課
下
部

YAME

1446

波集戦参電第三〇四號一及

時官一名、准時一名、下士真鳥也十三名計

憲兵、治集團二轉屈一件、將校以下十五名

ヲ乙支隊ニ附ス如ク近日秋發令セラル

支隊及

通電先 波 治 (治ハ参考)

支線

秘電

報

次長 苑

登集團參謀長

一七
一四四八發
一六三五著

登集參電第三三號

一 上海共同租界市參事會員中在滬中ナリシ

リデハ議長以下英人二 米蘭人各一計四名ハ

五日辭職セシム

議長後任ニ岡崎參事官 副議長ニ華人議員

袁履 登テ本七日就任セシムル豫定ナリ

通電先陸參總

終

62

桐門 高嶽 之門 柳見

至急 極秘 親展

發送番號 昭和17年1月9日午後2時30分 發送者印	施名 支那派遣軍總務課長 波集團參謀長 次長	種目名 澳門處理關係件	總長 次長 主任 主任 主任 主任	大長 次長 連帶 連帶 連帶	官 長(局)部 課長 課長 課長	決行後 決行後 決行後
----------------------------------	---------------------------------	----------------	----------------------------------	----------------------------	------------------------------	-------------------

1420

1449

波集 参了電第三三三號 返

澳門ニ對スル帝國ノ處理方針ハ差シ當リ從來ト變

化無シ但シ力ヲ以テ島處理後於ハ狀況ニ依リ

テ部兵力ヲ平和的ニ進駐セシメ^{特殊ノ}其他ノ措置ヲ講ズ

ルニ必要ナル場合其際^ハ予メ指示セラルル事ニ付目下處理

狀通りトシラレ特ニ全般ノ關係上澳門ヲ刺戟セザル様留意

アリ度右為念

63

10

9

8

7

6

5

4

3

2

1

作戰班

3

3

電次長宛
總參一電第九六號

昭和一七、一、一〇
一、九、一、一四、二七、發
支那派遣軍總參謀長

一、廣東周邊、敵ハ香港攻略間ト雖モ僅少部

隊ノ申譯的反抗ニニアリシニ過ギザリシガ今

概ネ香港作戰以前ノ態勢ニ移リ全ク戰

意ナキモノノ如シ

六、第百四師團ハ下士官以下二六〇〇名又第五十一

1451

師團第百四師團ハ將校各十數名ヲ第三十八
師團ニ補充シ其ノ補填ハ近ク内地ヨリセラ
ルル筈ナリ斯ル狀況ニ於テモ對敵封鎖ハ豪
毛緩ム所ナシ

三佐野兵團ノ準備ハ著々進捗シツツアリ

(終)

3



電報
次官宛
戰參電第四〇〇號

YIN
R
130
著發

波集閣參謀長

昭和二十一年

1453

補裝工事中ナル汕頭飛行場ハ一月中旬ヲ以テ作業概ネ完了十五日以
後使用可能、補裝擔任セルハ東西方向滑走路ノミニシテ長サ九五〇
米巾五〇米、但シ滑走路外ハ未ダ使用不能ナリ、南北方向滑走路ハ
補裝シアラザルモ補強可能ニシテ長サ一二〇〇米、巾一〇〇米路面
良好ナリ

通電先 陸 參 總 第三 第五飛行集團

(終)

66

密

秘

電 報
次 長 宛
治 集 國 參 謀 長
一 二 一 八 五 〇 發
二 一 四 〇 著

治參一電第五〇號

佐野兵團ハ本二十日八時香港ヲ出發セリ

(終)

昭和一七年一一

1454



支那派遣軍
總參謀長

三對久松要望

參謀總長

支那派遣軍
總參謀長

參謀總長要望

一 今般香港方面占領地域ノ防衛並軍政
ノ施行ニ任セシムル爲中央直轄ノ香港
占領地總督部ノ編成ヲ見ルニ至レリ
右ハ香港方面占領地處理ノ特性ニ鑑
ミ支那占據地域ト截然區分シ行政ノ
統監ヲ行ハントスル趣旨ニ出ツルモノ

(勳川助京東)

陸
軍

ナリ

然レ共香港方面占領地ノ防衛並軍政
ノ實施ハ支那派遣軍ノ南支ニ於ケル
作戰、兵站、謀略、情報収集及封鎖等ト
密接ナル關聯ヲ有スル爲總督ハ防衛、
兵站、交通、政務等所要ノ事項ニ關シ支
那派遣軍總司令官ノ區處ヲ受クル如ク

(納川助京東)

規定セラレアリ

特ニ第二十三軍ノ作戰ト緊密ナル關
係ヲ有シ軍政ノ施行、兵站ノ運營等ニ
關シテモ香港、廣東兩方面ノ統一セル
施策ヲ必要トスルコト多キヲ以テ同軍
ト總督部カ常ニ密接ナル協調ヲ保ツ
如ク指導相成度

(納川助京東)

二、香港占領地總督ニ下サルヘキ任務ニ
關シテハ目下研究中ニシテ支那派遣
軍ト密接ナル關係ヲ有スル點アルヲ
以テ之等ニ關シ意見承リ度
又此ノ際香港占領地總督トモ荒介
連絡シ充分意志ノ疎通ヲ計ラレ度

(東京防川第49)

3.

課長

部長



68

昭和十七年一月三十一日

極私

昭和十七年一月三十一日
參謀本部第三課

陸軍

在支新設師團ノ編成ト在支長期師團ノ整理ニ關スル件

昭和十七年時局兵備要綱ニ基キ在支新設師團六箇ノ編成ニ伴ヒ情勢大ナル變化ナキニ於テハ在支長期師團五箇ヲ左ノ如ク整理スル豫定ナリ

一 概テ昭和十七年七月頃在支師團二箇ヲ内地ニ歸還セシム特科部隊
其他ニシテ情況差支ヘナキモノハ右ニ拘テ迅速ニ歸還セシム
二 爾後成ルヘク速ニ在支師團一箇ヲ内地ニ歸還セシム
三 駐 現在南方ニ在ル某師團ヲシテ交代セシムル豫定

日本標準規格 B-5

1460

69

極密 至急 親信

特務取

大臣	總長	件名	宛名	發送番號
				發送月日
官次	(監總站兵)長次	兵團使用方面研究件	支那派遣軍總長	昭和17年2月4日午前6時50分
連帶部長(局)長	連帶部長			發送者
決行後覽(部長)	連帶部長	主任部長	庶務課主任	發送者印
決行後覽(部長)	連帶部長	主任部長	庶務課主任	

天下警備軍

SOMI

1461

第四師團ヲ比島方面ニ使用スル件ニ関シ

(渡部隊ノ隷下又ハ指揮下ニ入ラシムル如ク)

研究中ニシテ決定次第ヲ發令セラルル筈ナルガ比

場合輸送ハ船舶ノ關係上檢テ步兵一聯隊宛數

(ナル見込ナリ)

次三日リ差一回ノ出發ハ本月中旬ト細部ニ關シテハ決定

ニ伴ヒ逐次連絡スベキモ差當リ右ニ依リ準備ヲ進メラ

レ度右依令中一通過先 第四師團(珍中義を迄)